

# (国) 秋田大学

教育文化学部

学校教育課程

キャリア教養学科 (橘高校出身)

Q1.編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

高校3年生の冬です。一度高等教育機関で自分の夢を再考してから、行きたい大学へ行くと考えたからです。

Q2.編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

入学してすぐ、進路の希望を取ります。編入希望であれば、進路関係の授業の編入クラスでガイダンスがあります。つまり、授業が始まると同時に編入対策も始まります。もしその時点で迷っていても、就活クラスとの行き来が可能であったり後から進路変更したりできます。ガイダンスの内容は、編入の特徴や過去の先輩方の実績・対策方法などです。

Q3. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

短大に入り、授業が始まると同時に編入対策も始まります。全体では学科・専攻・コースを超えて先生方にご指導いただきます。その際は、多くの編入試験で課される英語・小論文・面接を中心に講義型や参加型学習をします。出願書類の書き方など事務的なことは、キャリア支援センターでご指導いただきました。

Q4. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

英語と小論文の対策です。(他の編入希望の学生に比べたら努力は足りないほうでしたが…。)英語は、1年生の時から編入英語の授業を受けていました。加えて、過去問を解いたり、英字新聞を訳したりして毎週先生に提出していました。これは試験の約半年前から始めました。小論文は、学科を超えて専門の先生に添削いただきました。専門の先生の考えを聞くことは、思っていたことが根本から覆されることがあるので大変勉強になります。これを本格的に始めたのは試験の約4か月前です。それまでは新聞や本を読んで勉強していました。

Q5. 聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

多くの授業が力になったと感じていますが、特に「社会系・地域系」の授業が印象に残っています。社会系の多くの授業では、差別について取り上げています。一口に差別と言っても人種差別や女性差別など様々です。私はその中で障がい者差別に関心を持ち、教員になった時に子どもたちにも考えてもらいたいと思うようになりました。地域系の授業では、実際にある地域と連携して住民の方や小中高生と地域の課題について考えます。世代を超えた意見交換によって新しい発見がありますし地域について何も知らないことに危機感を感じることができました。また、グループワークと発表が中心なので、自分の考えを相手に伝える力や出された意見をまとめる力がつきます。

Q6.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

先生のアドバイスはすべて役に立ちます。そのため、アドバイスを促すこととそれを素直に実行することが大切です。中でもこれまで編入に関わってきた先生、編入先で学びたいことの専門の先生がいればその先生にコンタクトをとると間違いはないと思います。

Q7.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを書ける範囲で教えてください。

①全力を出しても受からないだろうなという気持ち

②自分のやりたいことを探そう、そして編入先を再考して合格できるように頑張ろうという気持ち

③とにかく今まで自分が頑張ってきたこととご指導いただいた先生を思い出して全力を切り切ろうという気持ち

④あの時あの行動をとってよかったなという気持ちと先生方には感謝してもきれないという気持ち

Q8.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

聖母は、入学した学生を地域に貢献する強い社会人にするを一つの目標としています。そのため、授業だけでなく委員会活動といった運営などから学ぶことも多々あります。目標に向かって切磋琢磨できる環境であることは間違いありません。ぜひこの環境を生かして目標を達成してほしいと思います。